

「地球にやさしい」食生活のヒント

質問： 車とハンバーガー、どちらがより温暖化に影響するでしょう？

答え： その答えは「ハンバーガー」！

あなたの車をハイブリッドカーに変えるのも良い選択だけれど、ベジタリアンになることは、ハイブリッドカーに変えるより CO2 が少ない・・・しかも 200 万円がかからない (笑)

世界の CO2 総排出量の 51% は肉産業から* (車：13% 飛行機：2%)

*最近の研究では、肉産業は世界の年間排出量の 51% に上ると発表されました。

「ベジタリアン」という言葉は、「ベジタブル・エリアン」(野菜のみを食べている人)の意味ではなく、ラテン語の "Vegatus" が語源であり、簡単に訳すと、"Balancing" (バランスをとる、調和する) という意味。そこから「精神的・肉体的に健康で生き生きとして力強い人」を意味します。

"エコ" (Eco) とは、調和に関する事柄。それなら、私たちの食べ方が、環境や社会的な問題を解決して行くための鍵になるのではないのでしょうか?...ベジタリアンの食生活は、地球温暖化を抑制し、さらにアフリカの貧困化も抑えるためになります。次第に「私が何を食べようと他人には関係ない」という考え方が、自然に、「私が実際に何を食べるのかは、地球上の全ての人、事柄につながっていく」という考え方に変わっていきます。

1. 地球温暖化

地球温暖化の影響要因としては、「人為的な温室効果ガス*の放出、なかでも二酸化炭素やメタンの影響が大きい」とされています。*温室効果ガスは地球温暖化につながります。

食用家畜から排出される温室効果ガス (二酸化炭素、メタンガス)



*そのうち 78% は牛肉生産に起因。

*牛肉 1kg の生産過程で排出される二酸化炭素の重さは 16kg 相当。豚肉では 4kg、鶏肉は 1.5kg 以下の二酸化炭素を排出。

全ての交通手段 (車、トラック、電車、バス、飛行機、船等々) で排出される温室効果ガス



最近の研究で、家畜からの二酸化炭素の排出量は 世界の年間排出量の 51%*にも上ることが判明！

「地球にやさしい」食生活のヒント

なかでも、牛肉生産は、圧倒的に排出ガスが多い！

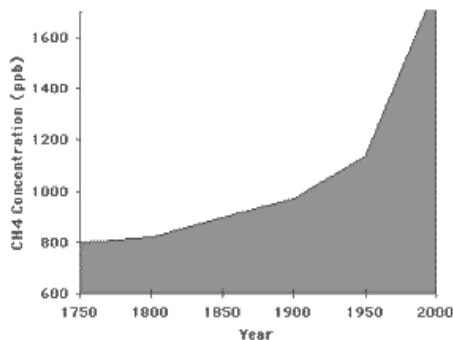
これは、牛肉は生産過程が非常に非効率であると同時に、ウシ自身が呼吸や排泄物などで温室効果の高いメタンガスを多く排出するからだと言う。ダルハウジー大の Pelletier 氏が米国科学振興協会 (AAAS) のシンポジウムで報告した。

牛は 1 日に 250g のメタンガスをゲップで空気中に排出している。地球上で飼育されている牛は現在、13 億頭近くなので、その 13 億頭が毎日空気中にゲップしていることを考えると、ものすごい量のメタンが日々、排出されていることになる。

全世界の温室効果ガス排出の 18%*が畜産業関連と言われ、中でも牛肉生産による排出量が最も多い。ペルティエ氏によると、先進国の食肉消費のうち牛肉が占める割合は 30%に過ぎないが、畜産業全体の排出ガスの 78%は牛肉生産に起因している。*最近の研究で、家畜からの二酸化炭素の排出量は世界の年間排出量の 51%にも上ることが判明！

こういう事実は、畜産振興するために、行政もマスコミも黙っています。

メタンガスは毎年どんどん増え続けています。



家畜からの温室効果ガス排出量--これまでの推計は過小評価

米国、ワシントンDC発—米国のワールドウォッチ研究所は 2009 年 10 月 20 日、最新号のワールドウォッチマガジンに掲載された「仮邦題：家畜と気候変動」 (Livestock and Climate Change) について伝えた。この論文によると、食用家畜のライフサイクルとサプライチェーンからの温室効果ガス排出量は、大幅に過小評価されているという。

これまで広く引用されてきた国連食糧農業機関 (FAO) の 2006 年報告書では、世界の温室効果ガス年間排出量の 18%が畜産からのものだと推計している。しかしながら、今回の研究では、家畜とその副産物からの二酸化炭素排出量は少なくとも年間 326 億トンで、世界の年間排出量の 51%に上るとしている。

論文の著者らは、畜産製品を大豆を主体にした類似食品などに置き換えることが最善の気候変動対策になると結論付け、さらに、「この方法は、化石燃料を再生可能エネルギーに転換する方法よりも迅速な効果が得られる」と述べている。(ワールドウォッチ研究所より)

「地球にやさしい」食生活のヒント

2. 水質汚染

アメリカでは、食用家畜を飼育が原因となる水汚染が、他の産業よりも多くなっています。

食用家畜が原因となる水質汚染（糞尿、排泄物）



他の産業（工場や事業場）が原因となる水質汚染



*アメリカで飼育されている家畜が排泄する糞尿の合計は、アメリカに住む全人口の排泄物の合計の**130倍**。

毎日、牛**1頭**につき約**23kg**の糞尿が排泄される。全体では、**1秒**につき約**40トン**の糞尿が排泄される計算。

*その排泄物の大部分は工場式畜産場で見られ、高濃度の毒性化学物質*を含み、河川、海へと流されている。

*農薬、除草剤、抗生物質、ホルモン剤、その他の薬品類

3. 水の使用

アメリカで消費される水の量の半分以上は、食用肉になる家畜を飼育するのに使われています。

約**450g**の牛肉を生産するのに使う水=約**32,000ℓ**



※約お風呂**160杯分**=この量は、標準的な家庭が家事目的に使用する水の総量**1ヶ月分**に等しい。



約**450g**の麦を生産するのに使う水

約**95ℓ**



※約お風呂**半分**

どちらが、もっと水を使う???



450gの牛肉



またはハンバーガー**4個**

・・・のどちらかを、生産する過程で使用される水



最低、半年分のシャワー



◇1日分の食事の生産過程で使われる水の量

純菜食主義の人・・・約**1100ℓ**（お風呂**5杯半**）

肉食の人・・・**15000ℓ以上**（お風呂**75杯分**）

ちなみに、



1個のハンバーガーには**2400リットル**の水が使われている。（お風呂**12杯半**）

「地球にやさしい」食生活のヒント

海

毎年、漁獲される魚や、その他の水生動物は、そのほとんどが人間が直接食べるのではなく、家畜の餌になっています。450gの牛肉を生産するには、約5.5kgの穀類が必要ですが、同じく450gの牛肉を生産するには、約45kgの魚が必要です。養殖の鮭を1匹育てるには、約23kgの野生の魚が必要です。

土地

アメリカにある全ての農地のうち80%が食用肉の家畜の飼育のため、または、家畜用の飼料を育てるために使われています。ということは、人のために生産される食料の耕作面積は、全体の半分以下です。そして、それはアメリカ全土地の45%を占めていることになります。

森林破壊

ハンバーガー1個=熱帯雨林5㎡の森林破壊

安い肉やハンバーガー生産には森の犠牲で作られています。

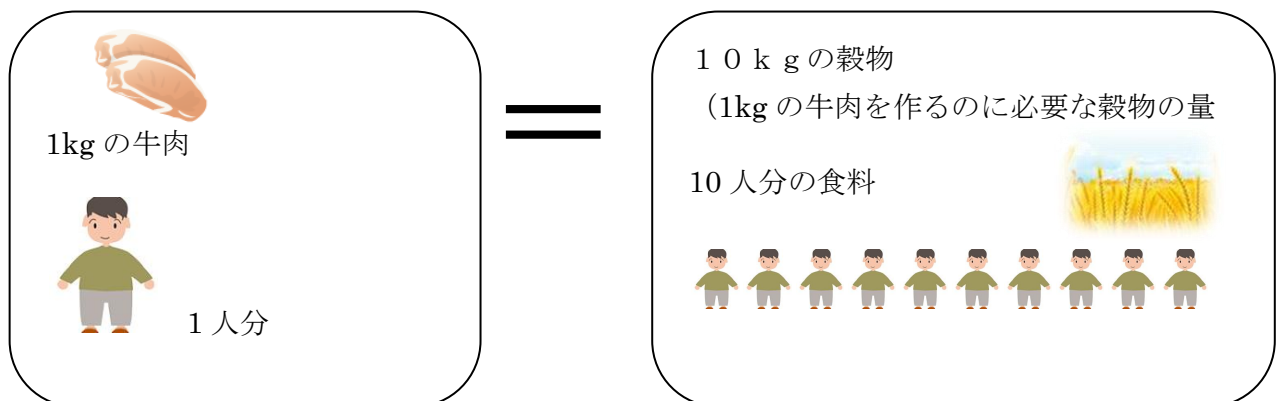
人間は1966年から18年間で約100,000 km²ものアマゾンの森林を失いました。

(100,000 km²=東京ドーム1388個分) その半数近くが大規模牧場開発によるものです。

世界の飢餓

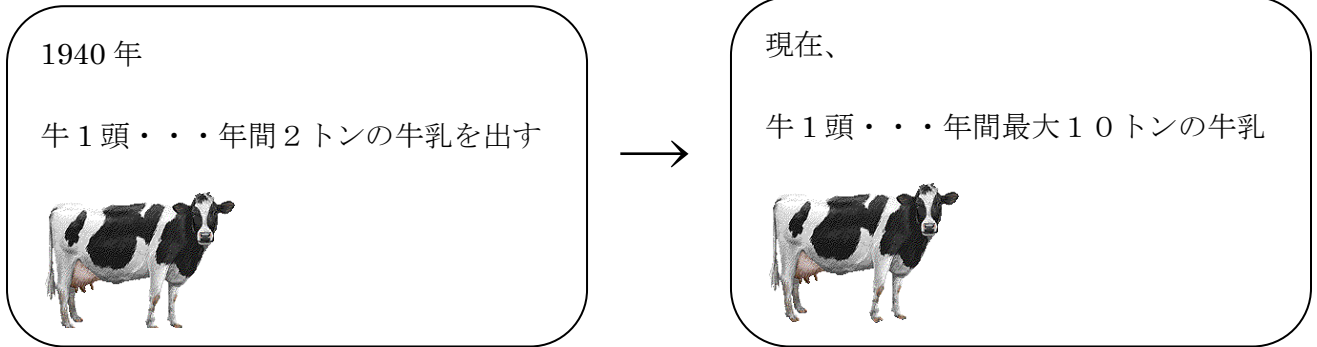
地球温暖化だけでなく、飢餓にも貢献できます。

肉を1kg作るのに穀物が10kg必要なので、肉食をする事で、10人分の食料を1人が奪ってしまっている計算になるそうです。一定の土地でどれだけのタンパク質が作れるかという計算で、です。地球温暖化だけでなく、飢餓にも貢献できるのです。



「地球にやさしい」食生活のヒント

牛乳は牛の赤ちゃんのための飲み物です。



どうやって牛乳の量を増やすのでしょうか？



- ・人工授精
- ・遺伝子操作
- ・抗生物質
- ・成長ホルモン
- ・安い“栄養強化”された飼料*

これらは、全て牛乳を飲む人の体にも取り入れられます。

*牛は元来、草食動物・・・でも、牛乳をいっぱい出す=利益を出すために、他の動物の肉なども“栄養強化”飼料として強制的に食べさせられています。

精肉処理の過程で出る動物の体のあらゆる部分（鶏、七面鳥、豚、山羊、羊、**牛**）

さらに、動物の死体（研究施設等が出た試験用動物、動物園、学校、市の動物保護施設、サーカス、路上で車にひかれた動物、魚などなど）

FDA（米国食品医薬品局）は、BSE問題が世間をにぎわした後、“栄養強化”飼料に**牛**は入っていないと断言していますが、それにもかかわらず、実は、それでもなお、**牛の脳や、脊髄が入っています**。

乳牛のライフサイクル

産まれてからすぐに子牛は母牛と離され、子牛専用の小屋で大切に育てられます。牛の平均寿命は本来約12年ですが、乳牛の場合は、たくさんのミルクを搾るために過剰出産させられ約5～6年でその役目を終え、食肉などへまわされます。

牛の平均寿命→本来約12年

乳牛→約5～6年

※乳を搾るため過剰出産させられ短命